

平成 29 年度高山工業高等学校 第 1 回学校活性化連絡協議会 議事要旨

日 時	平成 29 年 6 月 5 日 (月) 13:30～15:10
場 所	高山工業高校 会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50 音順)	<p>(委 員)</p> <p>石原 嘉和 高山市立日枝中学校 校長</p> <p>岡田 賛三 岐阜県木工連合会 会長 (飛騨産業(株) 代表取締役社長)</p> <p>籠場 和司 高山市立花里小学校 校長</p> <p>梶田 哲也 高山市教育委員会 学校教育課指導主事</p> <p>川上 哲也 県議会議員</p> <p>北村 齊 高山商工会議所会頭 (日進木工(株) 代表取締役)</p> <p>小屋垣内浩之 高山工業高等学校育友会会長</p> <p>高殿 尚 県議会議員</p> <p>田中 明 高山市 企画部長</p> <p>林 俊宏 高山工業高等学校後援会会長 (榊林工務店 代表取締役)</p> <p>水川 巧 高山工業高等学校同窓会会長</p> <p>(高校側)</p> <p>藤田 正昭 校長</p> <p>村田 和宏 教頭</p> <p>中川 守 事務長</p> <p>岩島 義則 教務主任</p> <p>門前 雅人 進路指導主事</p> <p>室谷 伸治 工業部長・建築インテリア科主任</p> <p>新家 邦男 電気科主任</p> <p>川上 登 電子機械科主任</p> <p>境 信之 事務局・機械科主任 (委 員)</p> <p>(県教育委員会)</p> <p>秋場 毅 教育総務課 課長補佐兼係長</p>
議事概要	<p>1 魅力ある高校づくりの成果と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校とのものづくり交流で、小学生が高山工業高校で何を学ぶのか理解できた。他の小学生にも活動を広め、工業教育の理解を推進してほしい。 ・高山市教育委員会としては、近隣小学校とのものづくり交流や、高山市と市内の企業が東京大学と行っている小学生を対象としたものづくりワークショップに対する高山工業高校の協力に感謝している。 ・昨年度行われた専門高校生地域連携推進事業の飛騨地区合同発表会は、大変素晴らしい会であった。この発表会により多くの中学が参加するよう中学校側で広めていきたい。 <p>2 学校の魅力の効果的な発信について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高山工業高校は、実体経済を支えている人材を育てている。自信と誇りを持って PR していくべきである。 ・高山市と連携して、飛騨高山ブランドの開発・販売を取り組むことはできないか。 ・小学生は、進路についてまだ深く考えていない。しかし、高校生から直接話を聞くことによって明確な進路目標をもつこともあった。

議事概要

- ・企業も中学校に対しキャリア教育を支援しているが、大人の目線からの助言になっている。高校生が中学校へ行って直接アドバイスするキャリア教育が、効果がある場面も考えられる。
- ・目標を持たず普通高校から大学進学を考える現状がある。これからは技術を身に付けていくことが大切であることを親から子に伝えることが大切である。産業界も一緒になって、地域ぐるみで飛驒に人が戻ってくるよう考える必要がある。
- ・商工会議所が発行している新聞に、これからの時代は手に職を持つ時代であるということ保護者に理解してもらえそうなコラムを掲載できるように努力したい。
- ・同窓会としても、自分の卒業した学校をPRしていただけるように会員にお願いしていきたい。
- ・現在は、女性もあらゆる仕事を行っている時代である。女子生徒の入学者が増えれば、男子生徒も入学者数も増えるかもしれない。

3 地域から求められる活力ある高校づくりについて

- ・高山市が進める岐阜大学など8大学との連携において、高山工業高校としてどのように大学と交流できるか考えてほしい。
- ・海外または日本の有名なデザイナーによる講演や指導を受けるといような、外部人材を積極的に活用した「よその刺激を与える」ような実践を行ってほしい。
- ・越境入学の受け入れも検討すべきである。全国と言わず世界から呼べるように魅力を高めるべきである。
- ・他県からの入学について検討を進めていくためには、高山工業高校がどのような学校なのか、他県から見てもわかりやすくすることが大切である。
- ・くくり募集を考えているということも聞いている。学校再編は子どものためという観点で進めていってほしい。
- ・産業界としては、高山工業高校には今ある4つの学科を残してほしい。
- ・進路選択を部活動で考える中学生が増えてきている。高山工業高校も部活動の強化を考えてみてはどうか。
- ・北海道三笠市立北海道三笠高校の製菓コースは、パティシエ養成をアピールし入学者増の成果を上げている。取組を参考にしてみてもどうか。